

学校運営協議会

校名	府立豊島高等学校
校長名	羽根 隆

開催日時	令和元年10月16日(水)15:30～16:45
開催場所	府立豊島高等学校1階 校長室
出席者(委員)	芝田会長、吉田副会長、大石委員、家島委員、湯川委員、安藤委員
出席者(学校)	羽根校長、吉田教頭、藤井事務長、甲田首席、田中首席、太田垣教諭
傍聴者	なし
協議資料	令和元年度 学校経営計画 他
備考	

議題等(次第順)	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の進捗状況について ・第1回授業アンケート結果について ・平成31年度教科書採択結果について ・その他 	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>○平成30年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況について協議した。委員からの主な意見は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学見学バスツアー：生徒が自分で大学を見て、肌で感じる事が大事。参加すると良かったとなる場合もある。生徒は受け身であるので、自ら積極的に働くのが本来の姿であるが、学校側から情報をどんどん与えることが大切である。学校からの刺激は子どもが動くきっかけになる。 ・データとしてバスツアーに参加した生徒と進路結果の追跡調査を行えば、入学後の不適應や中退率の低下につながるだろう。データがあれば費用支出の根拠として利用できる。高校1年生の時に刺激を与えれば、その後の2年間で生徒が「変わる」こともある。 ・様々な情報が氾濫しているが、このバスツアーのように自分で体験することに勝るものはないのではないかな。 ・勉強合宿：学習の進んでいる生徒が、合宿で生徒同士が教え合うこともできるのではないかな。 ・いじめアンケート：いじめは予防も重要だが起きた後の対応の方が重要である。価値観の違いもあるが、いじめは起きるものとして考え、起きた後どうするのか、犯罪レベルにならないよう迅速に解決するための体制ができていないか、などを考える方が大事ではないか。いじめの件数が何件以内という評価指標ではなく、いじめが起きた時のための体制整備、実際に発覚から解決までにかかった期間やそのプロセスなどを評価指標に変えるべきではないか。 <p>○第1回授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年、今年と同じ生徒が答えているので、1年の時より2年で意識(授業に対する動機付け)が若干下がり、3年で上がったと読み取れる。この間に実施した大学見学や勉強合宿が功を奏して、2年生より3年生で上がっているかも知れないので、過去3年分のデータの推移を見るとよいのではないかな。中だるみがあって、次に上がるなど先生方が肌感覚で持っているものがデータ上に現れているようにも見えるので、同一集団内の追跡調査を実施されてはどうか。 ・エクセルの分析ツールを使って分析してみるといいのではないかな。例えば、対応のあるt検定／対応のないt検定を行うことで数値の変化が意味のある差なのか誤差の範囲内なのか分かって数値に一喜一憂しなくても済む。また、マクロで分析手順を記録しておけば今後の作業にかける時間も少なくて済むので教員の働き方改革にもなる。作業効率を上げる工夫を考えてみてもらいたい。 <p>○教科書採択結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書選定のプロセスや資料を保護者に見せても良いのではないかな。選択肢は他にもあるということを理解してもらうことを考えても良いのではないかな。 ・この様に選択していただいているのがありがたい。 ・副教材はどのように活用しているのか。 →例えば数学であれば、教科書の問題を解いた後、副教材の問題をノートに写して解き、そのノートを提出させる等の活用をしている。 	

次回の会議日程	
日時	令和2年1月22日(水)15:30～
会場	府立豊島高等学校1階 校長室